

## ■地震の震度 10段階とは

### 震度0から震度7までの揺れ方

**0** **〔震度0〕**



- 人は揺れを感じないが、地震計には記録される。

**1** **〔震度1〕**



- 屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。

**2** **〔震度2〕**




- 屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。
- 眠っている人の中には目を覚ます人もいる。

**3** **〔震度3〕**



- 屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。
- 歩いている人の中には、揺れを感じる人もいる。
- 眠っている人の大半が、目を覚ます。

**4** **〔震度4〕**




- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などの吊り下げ物は大きく揺れる。棚にある食器類は音を立てる。
- 座りの悪い置物が、倒れることがある。
- 歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。
- 眠っている人のほとんどが、目を覚ます。
- 自動車を運転していて、揺れに気づく人がいる。

**5弱** **〔震度5弱〕**



- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。
- 電柱が揺れるのがわかる。道路に障害が生じることがある。

**5強** **〔震度5強〕**



- 大半の人が、物につかまらなさと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。
- テレビが台から落ちることがある。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。
- 自動車の運転が困難となり、停止する車もある。



**6弱** **〔震度6弱〕**




- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。また、倒れる家屋もある。

耐震性が高い      耐震性が低い

**6強** **〔震度6強〕**

- 立っていることができず、はわなと動くことが出来ない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地滑りや山体の崩壊が発生することがある。

耐震性が高い      耐震性が低い

**7** **〔震度7〕**

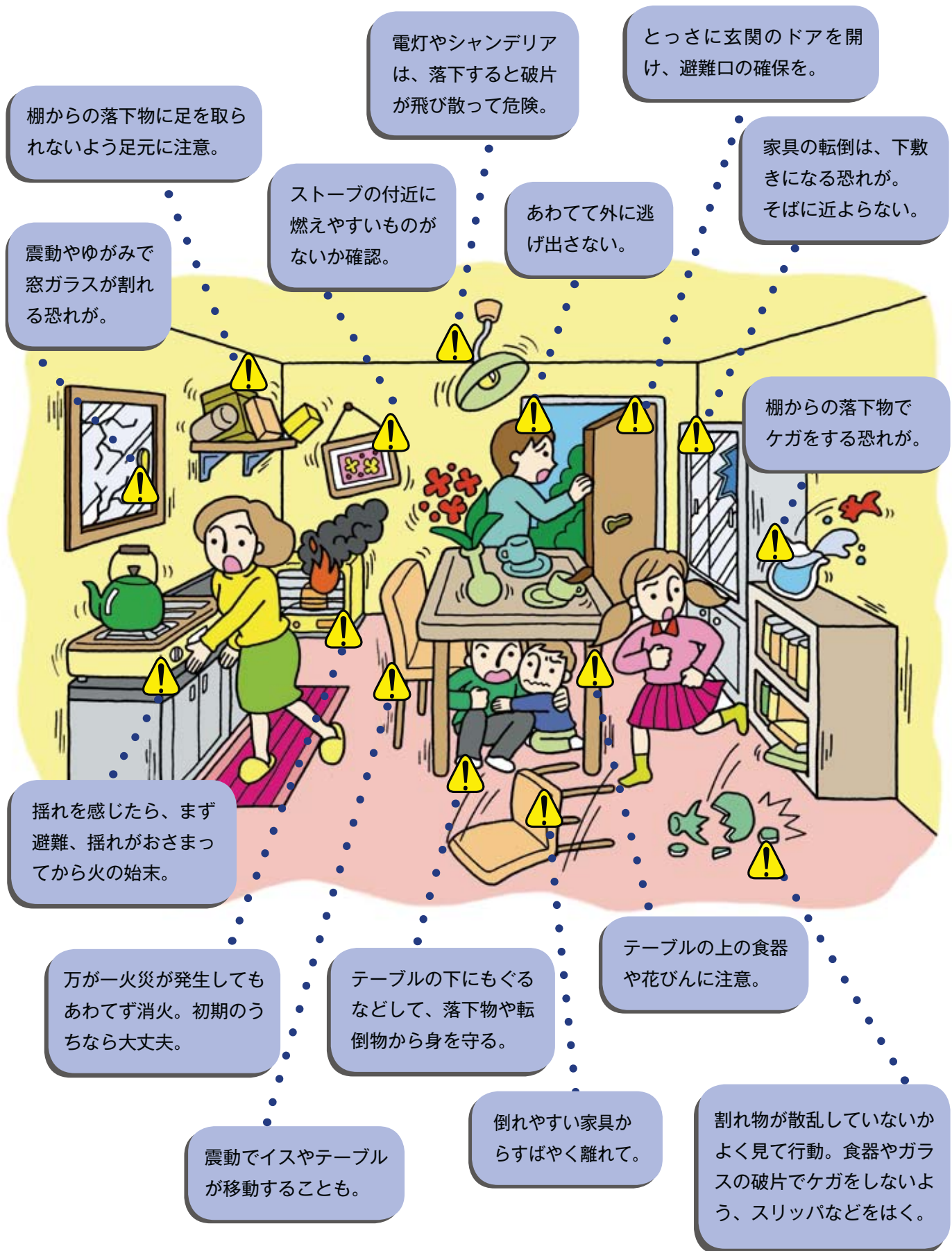



- 固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。
- 耐震性の低い木造建物は、傾き倒れるものがさらに多くなる。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

耐震性が高い      耐震性が低い

## 地震発生時の行動

### 家の中





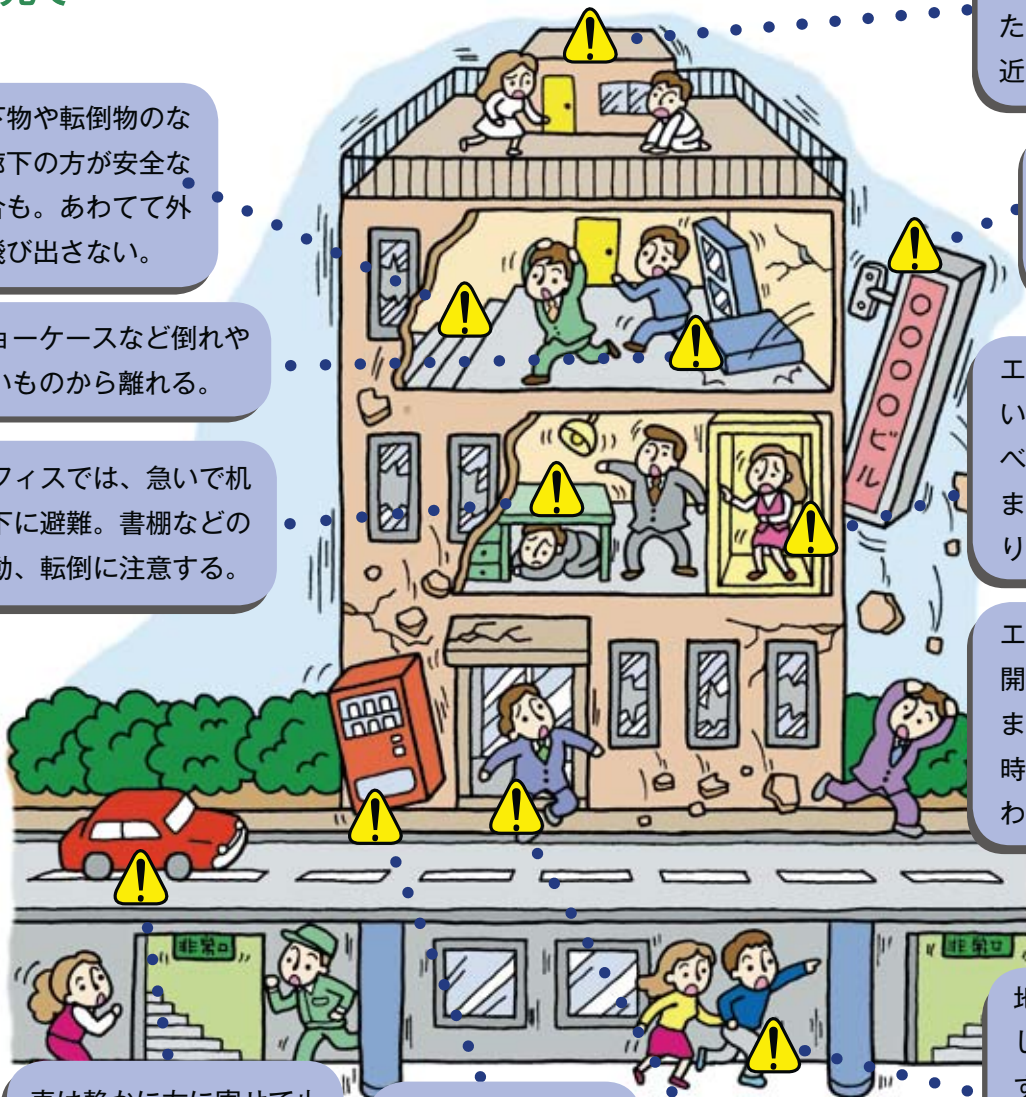
## ■地震発生時の行動

### 外出先で

落下物や転倒物のない廊下の方が安全な場合も。あわてて外に飛び出さない。

ショーケースなど倒れやすいものから離れる。

オフィスでは、急いで机の下に避難。書棚などの移動、転倒に注意する。



屋上では揺れを強く感じ、転落の危険があるため、なるべく中央付近で身を低くする。

看板などの落下物に注意。頭をカバーして安全な場所に。

エレベーターに乗っていた場合はボタンをすべて押し、最初に止まった階ですばやくおりる。

エレベーターのドアが開かない時は、そのまま救出を待つ。避難の時はエレベーターを使わず階段で。

車は静かに左に寄せて止める。車を離れる時は、キーをそのままにし、ドアもロックをかけない。

自動販売機は、転倒の恐れがあるので、すぐに離れる。

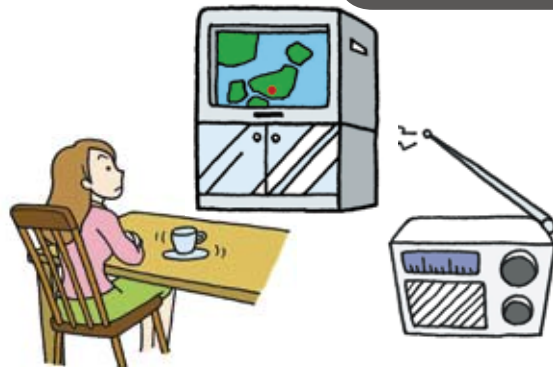
割れた窓ガラスなどの落下、散乱に注意。

地下街で地震に遭遇した場合は、あわてずに揺れがおさまってから行動しましょう。地下街は耐震性が優れていますので比較的安全です。

### 緊急地震速報が発令されたら…

震度5弱以上と推定される場合、緊急地震速報をテレビやラジオで流しています。

緊急地震速報を知らせる**チャイムが2回**鳴った後、テレビの画面下半分に、「**緊急地震速報**（気象庁）●●で地震、強い揺れに警戒」との文言、および予測震源地と警戒区域の地図・都道府県名を表したテロップ（約1分間 生放送番組中は震度情報が入るまで継続して表示）と同時に「**緊急地震速報です。強い揺れに警戒して下さい**」と2回繰り返して自動音声流れ、ラジオ、テレビでは通常の番組を強制中断し、発生する都道府県地域を自動音声で伝えます。



緊急地震速報が流れたら、強い揺れが来るまでわずかな時間しかありません。身の安全を確保し、倒れやすい家具などからは離れ、すぐにテーブルや机の下に隠れてください。

緊急地震速報を見聞きしたときの行動は、まわりの人に声をかけながら「周囲の状況に応じて、あわてずに、まず身の安全を確保する」ことが基本です。